

製品名: リン酸化 Rb2 p130 (Ser952) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe02531**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	Calculated MW: 128 kDa; Observed MW: 128 kDa

抗原情報

遺伝子名	RBL2
別名	Rb2; P130
遺伝子 ID	5934
SwissProt ID	Q08999
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

背景

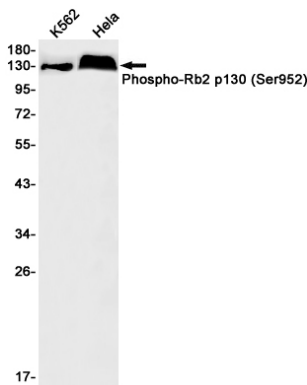
細胞分裂開始の重要な制御因子。クロマチン全体の構造、特にヒストンのメチル化を安定化させることで恒常的ヘテロクロマチンの

構造を維持することにより、ヘテロクロマチン形成に直接関与する。ヒストンメチルトランスフェラーゼ KMT5B および KMT5C をリクルートして標的とし、エピジェネティックな転写抑制を引き起こす。ヒストン H4 の Lys-20 トリメチル化を制御する。クロマチン修飾酵素をプロモーターにリクルートすることで、転写抑制因子として機能すると考えられる。E2F を介したトランス活性化の強力な阻害剤であり、E2F5 と優先的に会合する。サイクリン A および E に結合し、アデノウイルス E1A タンパク質に結合し、その形質転換能に関与している可能性がある。腫瘍抑制因子として作用する可能性がある。

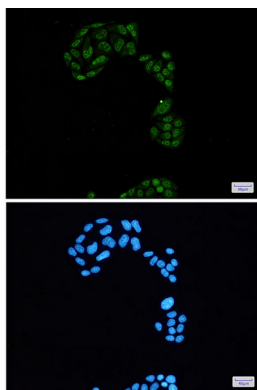
研究分野

細胞生物学

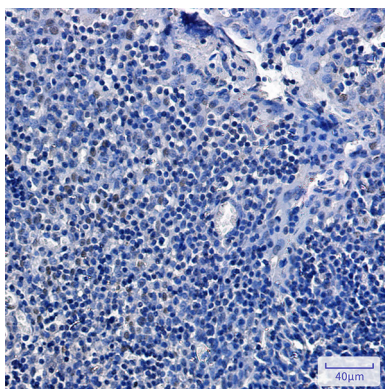
画像データ



Phospho-Rb2 p130 (Ser952) 抗体を使用した、K562、HeLa 溶解物中の Rb2 p130 (Phospho-Ser952) のウエスタンブロット分析。



HeLa 中の Rb2 p130 (リン酸化 Ser952) (緑) に対する Rb2 p130 (リン酸化 Ser952) 抗体および DAPI (青) を用いた免疫細胞化学分析



Rb2 p130 (リン酸化 Ser952) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学染色。抗原賦活化には、高圧高温クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を使用した。